

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	MOTIV GT1	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.032	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：GT1

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 番

4 インチ

研磨剤

比較対照ボール：SX1

フレアーの幅 インチ

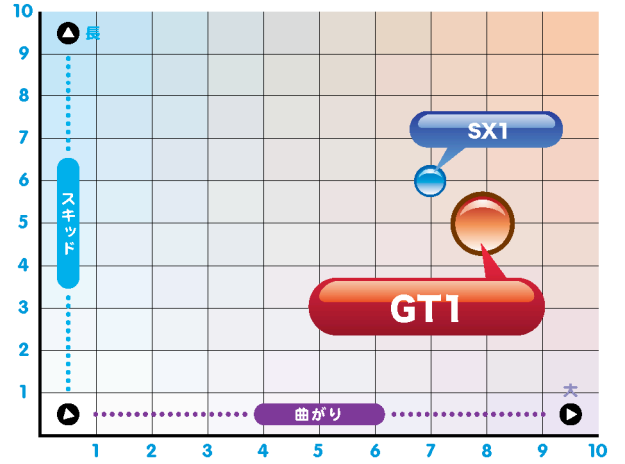
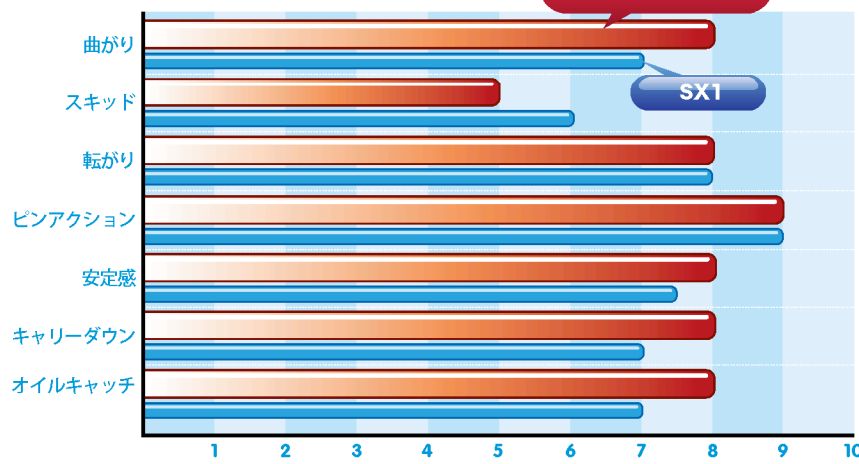
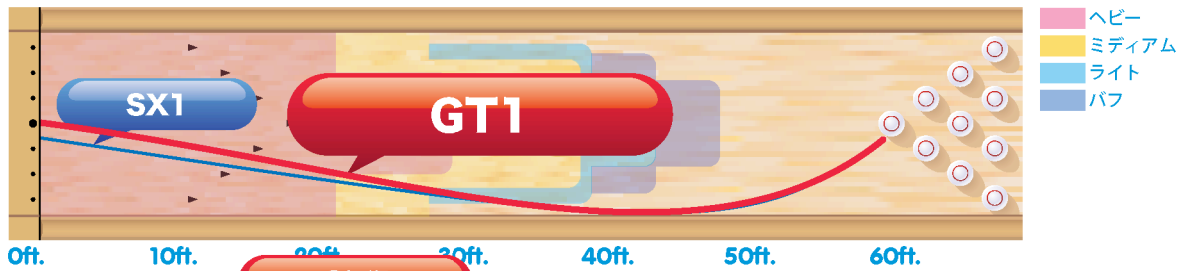
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 番

3-3/4 インチ

研磨剤



ボールの評価

この4月新たなブランドでABSに加わったMOTIV。

先月発売されたSX1・TX1は即日完売をし、MOTIVで提唱するNeo MarkグラフィックとMOTIVator-Xカバーストックの新しい試みは、次世代を担う最先端技術としてスタートしたことを意味しています。

今回発売するGT1はSX1・TX1より吸油効率の高いカバーストック、MOTIVator-Tを採用しています。ただ吸油率の高いカバーストックといっても、現在2分化されている吸油性・耐吸油性での分類においては、耐吸油性に分類されるものです。

投球したイメージは前回発売されたSX1の表面加工を粗くした性能と同等のリアクションを得られること。

またバックエンドリアクションがハッキリしており、十分な角度を取ってポケットヒットできる感じがしました。

MOTIVのリアクション特性であるミッドエリアでの強い動き出しはそのまま感じられ、そこからまだ鋭くポケットまで回転効率を持続できるのはMOTIVならではの技術と言えるでしょう。

Gear Driveコアでの△RG数値0.032をみても決して高い数値ではありません。この数値でもこれだけのリアクションを発揮できているという事は、コアテクノロジーとカバーストックを熟知した仕上げであり、MOTIVは長い年月の研究結果を性能で立証していると言うことでしょう。

対応コンディションはミディアム以上。独特なミッドエリアでの動きと鋭いながらも扱いやすいバックエンドモーションのGT1を是非お試しください。

特記事項

現在MOTIVで一番曲がるボール。

ミッドエリアで強く動き出しますが、大きく幅を取り出し戻すラインの投球も可能。